

片瀬のぞみだより



「気づく」ことに「気づく」



みんなおもちが大好きなことがわかった終業式。冬休みには、大好きなおもちとたくさん出会えたでしょうか。2025年が始まりました、あけましておめでとうございます。今年も神さまによって心身の健康が守られ、子どもも大人も力いっぱい歩める年になりますようお祈りします。

いよいよ1月に入り、2024年度の片瀬のぞみ幼稚園の業も残り今学期のみとなりました。去年の1月のたよりにも書きましたが、つついカウントダウンモードに入って「これは大丈夫かな？あれがまだできなくて心配。」と子どもの心配なところにクローズアップしてしまいがちな私たち大人ですが、この時期こそ子どもたちの成長を喜び合いたいと思います。そこにその子自身が持っている性質（得意なこと、苦手なこと、興味があることなど）への理解があり、心配を軽減できるヒントが隠されているのではないのでしょうか。今学期は、慣れ親しんだ幼稚園での生活でより一層、子どもたちは力を発揮して体と心と言葉で自分を表現してくれるでしょう、

さて、3学期は子どもたちの成長の姿として「気づく」ということへの素晴らしさ、大切さに出会える時期です。クリスマス、アドベントカレンダーには毎日お手紙が届き、シール帳にシールを貼りにきた子どもたちが「あっ、また、おてがみとどいてる～」と気づく度に声をあげていました。まさにこれが大事で素晴らしいことなのではないでしょうか。3学期はこの子どもたちが何かに気づいて、声をあげていくことが格段に増えていくのです。年少組のひよこさんは、久しぶりの幼稚園、お部屋に入ると「あっ、かべのえかわったー。」など馴染のある幼稚園のちょっと変わったところに気づくことでしょう。年中組の子どもたちは、「ぼくたちのおはな、まださかないね。」など自分たちが継続していたものへの変化に気づくことでしょう。年長組のはとぐみはきっと世界や宇宙など自分が知らなかった世界の近さに気づくことでしょう。そして、私たちは「すごいね、そんなことにきづけるようになったんだね。」と子どもたちの素晴らしさに気づくことでしょう。きっと、このお手紙が渡ってる時点で冬休みに死んでしまったカメさんに気づき、「せんせい、ひとりいなくなってる～」と声をあげて、みんなでありがとうのお祈りをささげ、ひとりひとりが以前よりも死や神さまが身近に感じ、何かに気づいているかもしれません。その時、大切にしていきたいのは、その気づきが正解か不正解かではなくてその気づきに共感していくことではないのでしょうか。その気づきに「ぼくも、わたしもそう思う。」と同意・同感されるとそれは大人でもう嬉しいものです。ということは、子どもにとっても気づいたことを一緒に考えてくれる人たちの中で思う存分気づきを表現することはとても大切なことなのではないのでしょうか。子どもたちは、気づきのプロです、様々な事象に目を輝かせてその気づきを伝えてくれます。だからこそ、そこに受け答えする側（特に大人）の対応にも子どもたちの成長を促す役割があるのかもしれません。